

# 食品放射性物質測定器の設置についての陳情

平成 25 年 11 月 15 日

品川区議会議長

石田秀男 様

陳情者

品川区の子どもたちを守る会

鈴木志織



品川区八潮 5-4-16-304

03-3790-0283

## 陳情項目

- ・ 放射能に対する区民の不安の軽減を解消する為の  
食品の放射性物質測定器の設置を検討してください。
- ・ 測定にあたっては区と区民との協力体制の仕組みを  
検討して下さい

厚生委員会付託



## 陳情理由

2011年3月の福島第一原発事故から2年8ヶ月が経ちました。事故後より品川区では、給食食材検査や土壌調査、空間線量の測定など、子どもたちや区民に対し様々な形で検査、測定を行って頂いている事に感謝致します。ですが今も尚、放出され続けている汚染水は収束の目処が立っていないというのが現実です。そうした環境の元、子どもたちの健康を願い、祈り、心の中で心配や不安、葛藤と模索しながら子育てをしております。中には現在の子どもの健康状態を確認する為に病院で検査を受けさせているご家庭もあります。品川区の子どもたちを守る会を発足し2年が経ちましたが、未だ不安を抱える保護者の方から相談の声が届いています。相談内容として多いものは、食材への不安、健康への不安、進学にあたり放射能対策を率先して行っている学校、保育園、幼稚園はありますか。といった内容が多いです。この進学にあたる時期の相談がもっとも多く、お弁当を持参できる学校、校庭や園庭などいちばん安心できる所はどこなのかといった事を聞きたい、知りたいという声が届きます。ホームページのアクセス数は2年5ヶ月で20万3千アクセスになり、1月平均では、6千7百アクセス、1日平均では270アクセスとなっております。その中でも突出してアクセス数の多い記事は、赤ちゃんのミルクやベビーフードについてです。また、当会のメーリングリストには、放射能に関する悩みを抱える保護者の方々が70名も登録をされており、食材や健康への不安や心配な気持ちを話されている方もいらっしゃいます。流通している食品は国の定めた基準値内で検査が行われていますが、実際に口に入る食品は何Bqなのだろうか、各スーパーなどでも自社基準を設け検査を行っていますが、自社基準が様々で、イオンでは15～30Bq、西友では非公開、ダイエーでは50Bq、イトーヨーカドーでは国の基準値内、となっています。一般食品では大人は100Bq、乳幼児は50Bqが基準とされていますが、乳幼児の子どもたちも大人と同じ食材を口にします。また、専門家によっても意見が分かれますが、どの意見を信じていいのか分かりません。今を一生懸命生き、大人を信じ生きる子どもたちにとって本当に安心、安全な食べものを提供できているのか心配でなりません。日々口にする食べものは、放射性物質検査をされたものが流通しているといわれても、厚生労働省で行った流通している食品の抜き打ち検査では基準値の超えた物が見つかりました。体内へ放射性物質が入り込んでしまうと蓄積されていくもの、排出されていくものがありますが不安はつのります。各自での判断基準や自分で数値を確認ができる事で不安や心配の軽減にも繋がり、解消にも繋げる事ができます。現在23区内では、5つの区が区民が持ち込んだ食材を検査する体制がととのっています。この品川区でもそのような体制があると嬉しいです。

また、今年度9月に守る会と地域の方で行った調査で、品川区内の保育園正門前の路上の砂から高濃度のセシウム4200Bqが検出されました。 $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$ 、 $x$ 線を測定できるガイガーカウンターで空間線量を測定してみた所、地上5cmでは $0.4\mu\text{Sv}$  1mの高さでは $0.23\mu\text{Sv}$ でした。農林水産省の資料によるとセシウムは、ガンマ線とベータ線を放出するそうです。現在区が行っているガンマ線測定だけではなく、ベータ線も含めた測定を行って欲しいと思います。数年では解決できない、分からないといった心の心情に耳を傾け、区と区民が協力のできる体勢の仕組みを検討して頂けますようお願い申し上げます。自分たちの健康、生活、環境の安心、安全を確認したい、という心の声に品川区には寄り添って頂けますようお願いしております。